

インドあれこれ①

愛媛大学総合健康センター 村上 和恵

縁があってよくインドへ行きます。あちこちと観光して周るのは好きではありませんので、向こうでは「旅行」という言葉とは程遠い生活をしています。友人宅で一緒にケーキを作ったり、ショッピングモールに買い物に行ったり、公園を散歩したり。農場でのんびりしながら野生の孔雀と遊んだり。子守り、犬守り、味噌汁やサバの煮つけの作り方講習なんかもありますよ。たまに遠くの友人から「来ない？」とお誘いがあれば飛行機で移動することもあります。デリーとハイデラバード、デリーとムンバイ、デリーとパトナという具合です。大きな都市間では就航便数も多いので予約なしでも大丈夫です。しかし、ほとんどの場合デリーを中心に滞在します。(地図で場所を確認してみてください)

初めてインドを訪れたときは、愛媛大学のゼミ旅行の学生たちと一緒にでした。といっても救護のために同行したのではなく、一行に加えてもらった、というのが正解です。12月の寒さと慣れない生活のため、とうとうアラハバードという北インドの町で2人の学生が寝込んでしまいました。このときの滞在先はホテルでした。日本から持参した緑茶を飲ませてあげようと「Give me hot water.」とホテルの従業員に頼むと、ポットが運ばれてきました。ところがこれがなんとただの水！再度別の人に「Give me hot water!!」とところがまたしても水!!!あとでわかりましたが、田舎

のホテルの従業員は water という英語は知っていても、hot という言葉は知らなかったのです。では何と言えお湯が運ばれてくるのか？これは「Garam paanii diijie.」「ガラム パーニー ディージェ」と読みます。北インドで使われているヒンディー語です。ガラム

गरम पानी दीजिए

マサラというのをご存知ですか？直訳すれば「ホットなスパイス」。ガラムとは「熱い」という意味なのです。パーニーは「水」、ディージェは「ください」、つまり「熱い水をください」。です。勘のいい人はもうお分かりですね。そう、ヒンディー語って語順が全く日本語と同じなのです。そのときなぜか「ヒンディー語を覚えなくっちゃあ！」と思ったのです。今にして思えばこれがインドとの長いお付き合いのはじまりだったみたいですね。次に渡印する機会があるかどうかともわからないのに、ヒンディー語を学ぼうなどと、今にして思えば大それた思い付きなのですが、その時はなんの迷いもなく、ヒンディー語を話せるようになりたい！と思ったのです。

翌日訪れたワラナシ(ベナレス)では同行の女子学生が非常に危険な目にあいかけ、相談の結果、女性4人が全員ひとつの部屋に集まり、ドアを開けられないようにベッドでふさいで眠りました。鍵は壊れている、窓ガラスは割れている、布団はない、(寝袋は持っていましたが)、極めつけは、土地の名士が一人の女子学生の部屋へ押し掛け迷惑行為に及ぼうとする、という非常にスリリングなお宿でした。スケジュールも負けず劣らずかなりハードでしたので、その後も体調を崩す学生が続出。散々な旅だったように記憶しています。

しかしもう懲り懲りとは思いませんでした。むしろ、このままだとインドの良い部分を知らないままになってしまう、という気持ちの方が強かったのです。そうこうしているうちに2度目の訪印の機会は意外にも早く訪れました。それは初めてインドの地を踏んだ9カ月後のことでした。話が長くなってしまいますので、その後の経験については機会があればご紹介したいと思います。みなさんからの質問や

疑問に沿って次回の第2弾を構成しますので、遠慮せずにメールでご意見をお聞かせ下さい。
では、phir milenge.(フィル ミレンゲー また会いましょう=さようなら)



お正月、使用人の子供たちにグラブジャムーンというお菓子を配っているところです。



1月3日の誕生日。アラハバードで。ケーキは、みんなであれがいい、いやチョコレートのだ、と協議の結果「パイナップルケーキ」に決定。町で一番繁盛しているケーキ屋さんへ買いに行きました。子供たちがお祝いに駆けつけてくれました。



親せきの子供たち。おしゃべりが大好きです。飲んでいるのはチャイ。ミルクティーですが、私はいつも砂糖なしです。最近ではインドの人たちも健康志向が強くなり、以前のように大きなスプーンに3杯も4杯も砂糖を入れることはなくなりました。



ハイデラバードで早朝ムスリムの人たちがパンを焼いていました。焼きたては熱くておいしい！



ハイデラバードでのモーニングツアーの途中で。真ん中の子は昨年9月にとてもかわいい女の子のお母さんになりました。私はNani(母方のおばあちゃん)です。彼女とは一番うまが合います。趣味や興味が同じなのです。数年前に来日し、帰国の際関西空港で飛行機に乗り遅れました。電話を受け取ったのは、松山空港から関西空港行き最終便の出発40分前でした。私は朝からずと外に出ていましたが、幸いカードや現金を持っていたので、すぐさま関西空港に飛び、次の出発まで3日間一緒に大坂の友人宅にお世話になりました。それも我々二人にとっては楽しい思い出です。